

津市立南立誠小学校における 「地域に学ぶ総合的な学習の時間」の実践と それをサポートする三重大学教育学部の役割

小山 史己*・稲垣 博美*・須曾野仁志**・下村 勉**

津市立南立誠小学校では、「地域に学ぶ総合的な学習の時間」についての研究を進めてきた。この時間の実践を進める中で、南立誠小学校と三重大学教育学部が連携をとり、大学生が子どもたちと一緒にデジカメを持って校区を歩いたり、大学生及び大学教官がプレゼンテーションソフトの操作方法や、ホームページ作りの指導・支援を行った。これらの活動を通して、小学生の子どもたちと大学生が触れあうことができ、技術的なサポート以外にも、お互いにとって多くのメリットを得た。

キーワード：総合的な学習の時間、地域教材、地元大学との連携

1. はじめに

津市立南立誠小学校（児童数440人）では、2002年に本格実施される「総合的な学習の時間」を2000年度から試行錯誤しながら取り組んできた。2001年度は「総合的な学習の時間」を「いきいきタイム」と名付け、地域素材を教材に取り上げることにした。地域教材は、子どもたちに体験させることが多く、その活動を通して疑問が生まれたり、思わぬ発見があったりして、思考活動が広がるのではないかと、また、学習を通していろいろな人の生き方や仕事に対する思いにふれることができるのではないかと考えたからである。

「いきいきタイム」の学習を展開する上で、「地域の先生」として、市役所や自治会の方をゲストティーチャーとして迎えたり、近くに位置する三重大学教育学部からのサポートを受け、小学生の子どもたちと大学生との交流ができたらと考えた。

2. 南立誠小学校の取り組み

(1) 南立誠小学校の特徴

南立誠小学校の校区には、島崎海岸や安濃川などかけがえのない豊かな自然があり、そこにはさまざまな生き物がいる。桜やツツジでにぎわい、歴史的にも価値のある偕楽公園がある。また、県庁・博物館・美術館・点字図書館・福祉センターなどの公共施設もたくさんある。公民館では、寿大学などお年寄りが集まる講座が開かれている。小学校のとなりには幼稚園や中学校もある。

このように、「総合的な学習の時間」を進めていく上で、多方面にわたり恵まれた環境にあるといえる。しかし、今まで地域に住んでいるお年寄りや寿大学の人たちにいろいろ教えてもらったり、隣接している幼稚園の子どもたちと遊んだりすることはあっても、そこで働く人々の様子・思いに触れ、その施設の役割を知ったり、利用している人々と交流したりすることはなかった。

さらに、保護者の転勤から、転出転入する子どもも多く、地域に対して馴染みが薄いのではないかと考えられた。また、ずっとこの地域に住んでいながらも地域にある物に関心がなかった

* 津市立南立誠小学校

** 三重大学教育学部附属教育実践総合センター

り、地域の良さを認識していないようにも思われた。そこで、「総合的な学習の時間」を通して、地域に愛着を持ち、自分たちが今できることを考えるきっかけにさせていきたいと思い、計画をたてた。

(2) いきいきタイムの年間計画

2000年度は、「総合的な学習の時間」を年間70時間、2001年度は90時間を設定し、年間計画を次のように作成した(表1)。

(3) 学習のプロセス

研究を進めるにあたって、学習のプロセスを「ふれる→つかむ→ふかめる→ひろげる」とし、研究に臨んだ。(図1)

「ふれる」では、学年の児童全員で共通体験をし、テーマについて共通理解を図りながら、個々の児童がテーマについて様々な角度から興味関心を持てるようにする段階である。

「つかむ」では、調べたい課題を設定し、課題解決への見通しをつかむ段階である。

「ふかめる」では、自分の課題解決に向けて活動や体験をしたり、情報を収集したり、中間発表などの交流活動をする段階である。

「ひろげる」では、調べたり、体験したり、考えたりしたことをレポートにまとめ、それを他に伝えたり、学習(活動)したことを振り返り生き方を考える段階である。地域への発信として、ホームページを開設したり、チラシやポスターを作成し、配布を考えている。

これらの学習活動を通して、研修主題である「生き生きと活動し、仲間とともに高まろうとする子」に迫っていききたいと考えた。

(4) 地域・保護者との連携

保護者や地域の方々にスクールサポーターとして、「ふれる」、「つかむ」の体験活動時に児童の安全を見守ってもらったり、「ふかめる」の学習活動時に支援をお願いしたりしている。また、ゲストティーチャーとして子どもたちに話をしてもらった。

地域環境の野外調査では、保護者だけでなく、

地域の方にも呼びかけ一緒に活動したり、地域への情報発信の一つとして、学校のホームページを開設している。

また、三重大学が学校から数キロの位置にあるので、教育学部と連携をとりながら、大学生・教官による支援、情報機器(ハード・ソフト)の面で共同研究が実現できればと考えた。大学生や教官がサポートできれば、子どもたちの疑問にもすぐに対応でき、活動が充実し、成就感を味わえるのではないかと考えられる。

3. 南立誠小学校と三重大学教育学部との連携

小山は、2000年度後期、三重大学教育学部附属教育実践センターに情報教育内地留学をし、さらに、2001年度は小山と稲垣が「三重大学教育学部附属教育実践総合センター研究協力員」となり、小学校現場において、情報機器を活用した大学や地域との連携について研究を進めてきた。本研究は、小山・稲垣が所属する南立誠小学校の教師集団と、須曾野・下村を中心とする三重大学教育学部附属教育実践総合センターが、小学校と教育大学の連携をいかに進めていくかについて実践してきた。この研究で、取り組んできたことは以下のようなことである。

(1) 学校環境デーの取り組み(6月5日)

南立誠小学校では「学校環境デー」の取り組みを以下のようなねらいを持って、全校で行った。

- ・校区(地域)の環境(生き物、町並み、ゴミ等)を知る。
- ・縦割り班で行動することにより、他学年と仲良くなる。
- ・それぞれの班が自分の見てきた場所を掲示物で紹介し合い、より校区の環境について関心を持つようになる。

活動方法は、全校を36の縦割り班に分け、それぞれの班が自分たちのテーマに沿って校区内の行き先を決め、計画を立てた。そして、まとめの場面で、掲示物を作るために活動内容をデジタルカメラで撮影することにした。

表1 南立誠小学校 平成12・13年度「総合的な学習の時間」年間計画

平成12年度のプラン

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生 生活科	1年生になったよ	あそびば へいこう	なつが きたよ			わたしに できるよ	あき みつけた	わくわくふゆが やってくる			もうすぐ 2年生	
2年生 生活科	春のたんけん		夏 のたんけん				秋のたんけん				冬 のたんけん	
3年生	英語 であそ ぼう	きれいにしよう わたしたちの町 (20)				すきになろう わたしたちの町 (28)				知りたいな むかしの町 (20)		
4年生		南立誠小学校区の水について調べよう (22)				ケナフと紙 (10)	手話や点字の 世界を知ろう (18)			Let's enjoy the global world (16)		
5年生	A 柔 し く の す ご し 生 そ う	松本端海岸に生息する 動植物を知ろう (22)				命について 学ぼう (27)				地域の伝統 工芸に挑戦 しよう		
6年生		(4)	見つけよう環境 (24)				見つけよう私たちの町 15年戦争に学ぼう (27)				今私たちに できること (16)	

平成13年度のプラン

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生 生活科	はると なかよし		なつと なかよし			かぞくと なかよし	あきと なかよし		ふゆとなかよし		もうすぐ 2年生	
2年生 生活科	町たんけん	生きものを かおう				えきたんけん		ふゆをたのしく		こんなに 大きくなったよ		
3年生	きれいにしよう わたしたちの町 (ゴミってなあに) (28)				すきになろう わたしたちの町 (みんなおいでよ!) (38)				知りたいなむかしの町 (おたけおしちゃん おおたけちゃん) (24)			
4年生	みんなの津駅前 ごみ0大作戦 (33)				きれいにしよう、私たちの津駅前通り (57)							
5年生 (90)	環 境 デ ィ	安濃川のひみつを探ろう (進め!探検隊)(進め!環境研究隊)(今、わたしたちにできること)										
6年生 (90)		みんなで見つけよう、借楽公園のすべて										

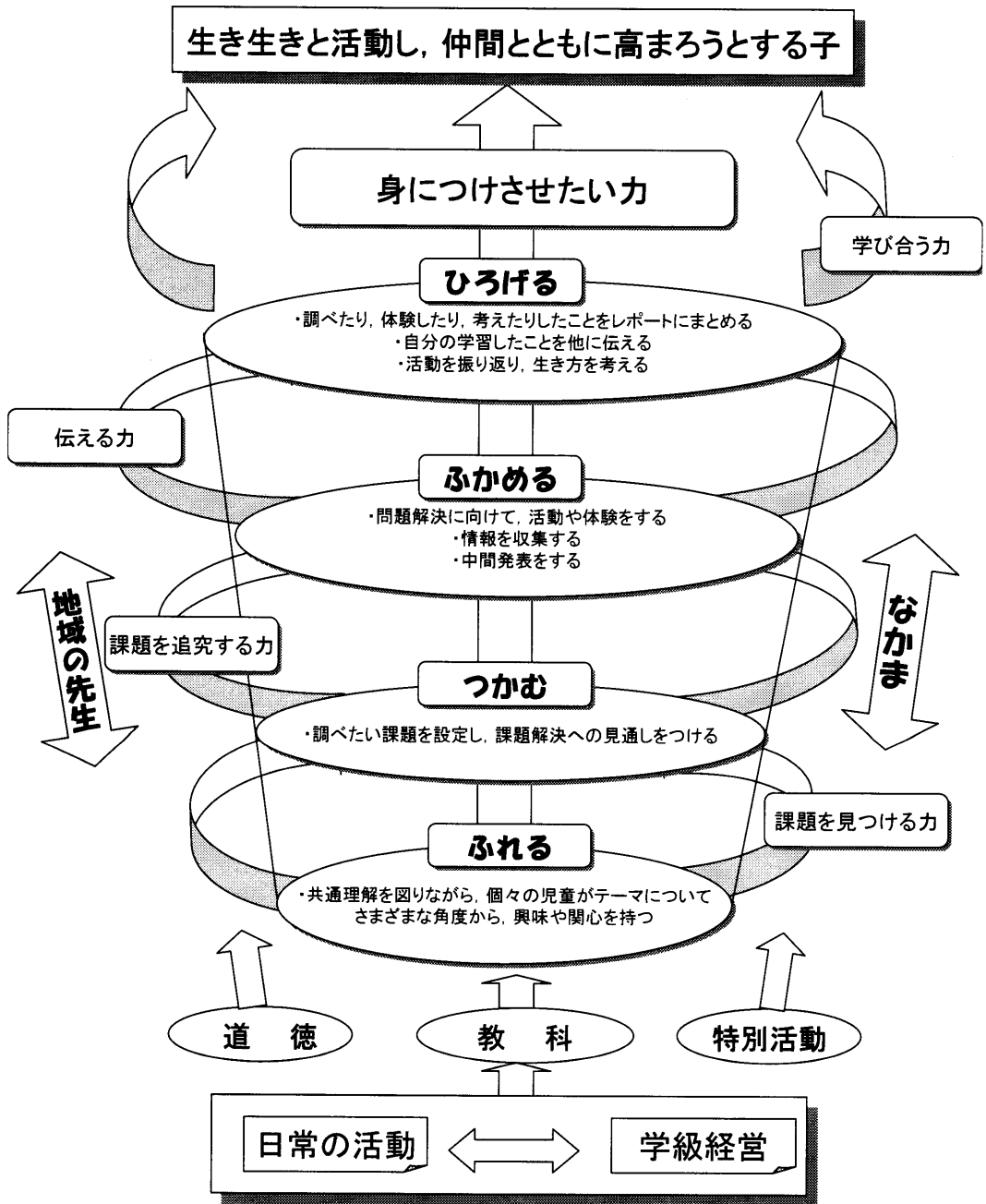


図1 南立誠小学校の「総合的な学習の時間」における「学習のプロセス」

しかし、子どもたちは、撮影はできても、そのデータを取り込んだり、印刷することは初めてであり、多くの困難が予想された。

そこで、須曾野を通じて教育学部情報教育課程の学生に支援を依頼した。当日、一人の学生が自主的に参加し、午前中の地域を探索する活動から一緒に行動した。そして、午後からは、写真データの取り込みの方法等を児童に指導した(写真1)。その学生は、子どもたちと午前からの関わりがあったため、コミュニケーションも十分にとれ、能率的に活動を行うことができた。



写真1 データ取り込みの支援をする大学生

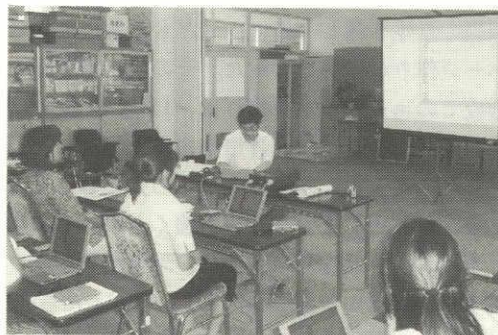


写真2 教職員にパワーポイントの説明をする須曾野



写真3 支援する教育学部情報教育課程学生

(2) 教職員のパソコン研修会(8月9日)

夏休みに、南立誠小学校教職員対象のコンピュータ研修を計画した。秋に研究発表会を控えているため、研修内容は「プレゼンテーション」とした。

しかし、学校のコンピュータ室には、コンピュータが11台しかなく、ソフトのライセンスも揃っていない。

そこで、須曾野と教育学部の学生3人が、教育学部附属教育実践総合センターのノート型コンピュータ20台とプロジェクタを持参し、研修会を実施した(写真2)。学生は指導補助という形で参加した(写真3)。当日、教職員が一人一台のコンピュータを操作することができ、また、学生の適切な支援を得ることもでき、大変充実した内容となった。

(3) 「総合的な学習の時間」の実践の支援

－ホームページ作成研修会－

本年度、南立誠小学校の6年生では、総合的な学習の時間に「偕楽公園を紹介しよう」というテーマで活動を進めた。

子どもたちは、「ビデオグループ」「ホームページグループ」「パンフレットグループ」「ガイドグループ」の4グループに分かれ活動計画を立てた。活動の中で、コンピュータの使用を希望する子どもが多数いた。

しかし、学校にある児童用コンピュータ10台を交代で使うのでは、子どもたちにとって十分な学習活動にはなりにくい。そこで、教職員パソコン研修会と同様に、大学のコンピュータとプロジェクタを使用することを考えた。須曾野は、南立誠小学校からホームページ作りの支援を依頼され、10月25日に教育学部情報教育

課程の学生3名と一緒に、子どもたちにホームページ作りの指導を行った。その後、南立誠小学校でのホームページ作りは、11月22日の研究発表会まで間、担当教員が指導に当たった。しかし、子どもたちは「大学生の人たちにもっと来てほしい」という希望が強くあり、その中でホームページ作りの支援に、学生が数回南立誠小学校に出向き指導を行った。子どもたちは、自分たちの疑問をやさしく、わかりやすく教えてもらうことができたため、毎回活動を楽しみにし、学生が来ることをいつも大変心待ちにしていた。

そこで、学生たちは、研究発表会当日にも参加し、子どもたち一人一人のホームページを見ながら、仕上げの段階でのアドバイスをした(写真4. 5. 6)。研究発表会に参加した教員や教育関係者からは、「学生の支援を受けることで、子どもたちは非常に有意義な活動を展開することができる」「学生が子どものことがよく理解できる良い機会である」という感想があった。子どもたちは専門の先生や学生に的確な助言を頂き、大変喜んでいて。(表2) また、教育学部の学生が教育実習以外の現場で、児童と接する機会は少なく、学生にとっても貴重な経験になったようである(表3)。

表2 子どもの作文より

・私は今回初めてホームページ作りをしました。そして大学の先生、学生さんにお話を聞いたのも初めてです。私は最初「大学の方のお話だったら少しむずかしいかな…」と思っていたけれど、とても分かりやすく説明して下さり、また、分からないところがあったらパソコンを使って教えてくれました。だから、初めてでもだいたいのことが分かったし、ホームページ作りが楽しくできました。これからまた、ホームページを作りたくなったらできると思います。(S. Y)

・大学の人に来てもらって基本がいろいろと分かってよかった。特に「見る人の立場

になって考えるといい」という言葉を聞いて色や字の大きさを見やすく工夫しようという気持ちになりました。(M. N)

・ホームページビルダーの使い方や、絵や背景の入れ方など優しく教えてくれてうれしかったです。「やっぱりよく知っているなあ」と思いました。ホームページ作りは大変だったけど、自分なりに満足です。できた、ホームページを親や地域の人やみんなに見てもらって感想を聞いてみたいなあと思います。(H. S)

・最初はやり方が全く分からなくて、大学生の人にいっぱい教えてもらいました。すごく分かりやすかったです。今では、ホームページ作りがスムーズに進んで作るのがものすごく楽になりました。(A. O)

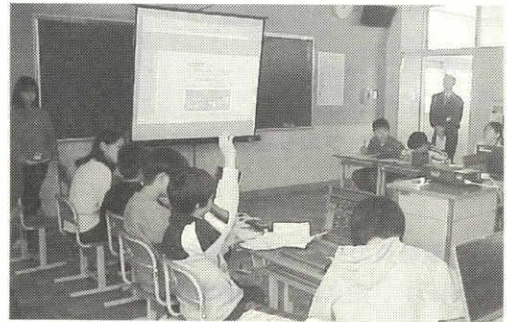


写真4 教育学部附属教育実践総合センターのコンピュータとプロジェクタを使っての研究発表会の様子



写真5 相談にのってもらっている子どもたち



写真6 子どもたちに的確な助言を与える学生

表3 参加した教育学部情報課程学生の感想

今日はHPがほぼ完成していてその発表会だった。子どもたちは、教えたこと以上の事をやっていて、それぞれ個性的なホームページを作成していて良かった。必要な事を教えれば後は自分たちで教え合っていていくのだなあと思った。ホームページビルダーを使わずHTMLを使って作ってる児童がいたのには驚いた。今回、小学校現場へ行ってホームページ作成支援を通して直接子どもたちと関わることができ、大学には経験できないことがたくさんあった。この経験を、自分の「小学生向け教材ソフト」を開発をしていく上での参考にしていければと考えている。

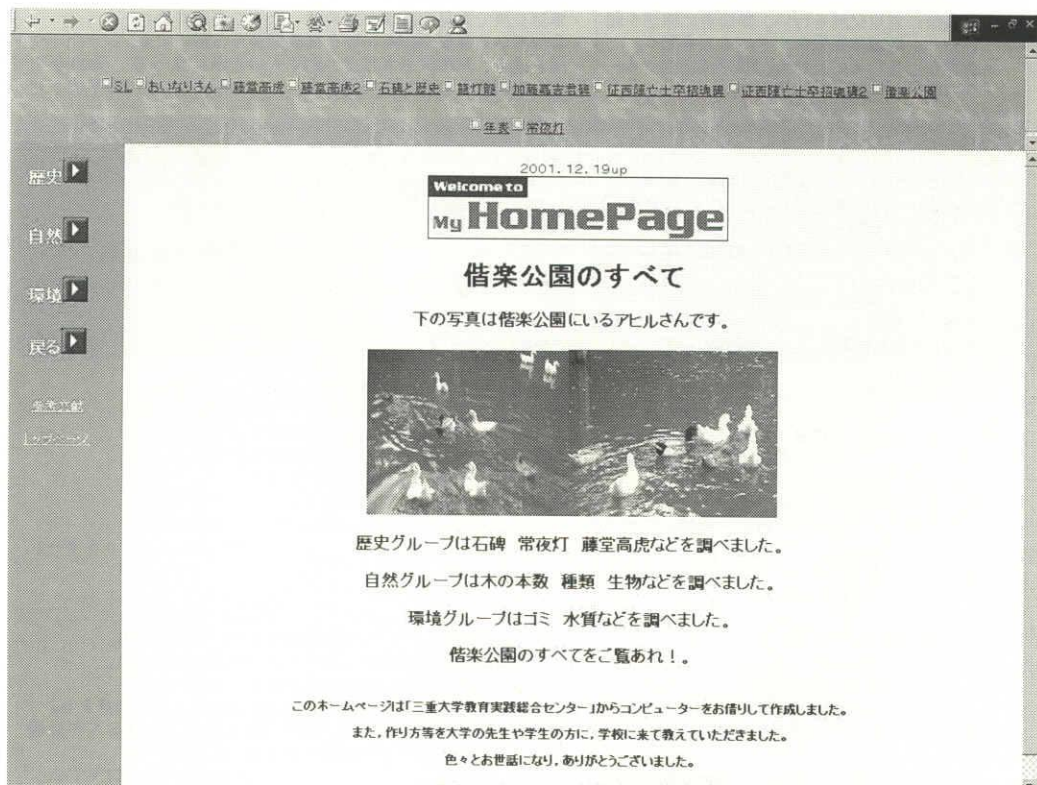


図2 子どもたちが作成したホームページ「借楽公園のすべて」

URL: <http://www.res-edu.ed.jp/minamirissei/>

以下、資料1に6年生研究発表会当日の本時案をしめす。

資料1 研究発表会当日の活動の流れ（網掛けはホームページグループの活動）

2001. 11. 22

- (1) ねらい
- ・自分たちの計画に沿って、友だちと協力しながら偕楽公園の良さを広める準備を意欲的に進めることができる。
 - ・地域の先生にアドバイスを受けながら、よりわかりやすい表現方法を工夫しようとする事ができる。
- (2) 準備物
- ①ガイドグループ 筆記用具・各自の資料
 - ②ホームページグループ PC9台・プロジェクター・筆記用具・各自のFD
 - ③パンフレットグループ PC10台・筆記用具・各自の資料
 - ④ビデオグループ VTR・ビデオテープ・各自の資料・筆記用具・ビデオカメラ
- (3) 地域の先生 ZTVの人・印刷業の人・PCのインストラクター・三重大学生
- (4) 活動の流れ（60分）

児童の学習活動	教師の支援
1 全員がTT教室と6-1教室に分かれて全体会を行い、本時の活動内容を聞く。 2 全体会の後、各教室に分かれてリーダーを中心に作業を進める。 ・地域の先生の話を聞く。 ・本時の活動を確認する。	・T1、T2が二つの教室で同時に全体会を行い、本時の活動について説明する。 ・リーダーを中心に自分の担当する所を意欲的に活動させたい。 ・T1、T2は担当教室を回り作業をうまく進められない児童を中心に支援する。
①偕楽公園のガイドをしよう。(6-2教室) ・コース別(生物・樹木・石碑・歴史)にそれぞれ発表を行う。 ・発表後に意見交流を行い、参観者に感想を聞いたり、地域の先生のアドバイスを聞く。 ・意見などを参考に工夫が必要な所などをグループで相談して修正し練習する。	・メモをとって、しっかり発表を聞いているか見守る。 ・緊張している子には声をかけて励ます。 ・説明する順番や準備物などに対しても目を向けるよう助言する。 ・意見交流で意見や感想が出やすいように支援する。 ・参加者から意見が出ないときは教師から願う。 ・話す速さ、声の大きさなど、聞く人の立場に立って、分かりやすく表現できるように支援する。(地域の先生: ZTVの人)
②偕楽公園のホームページを作ろう。(TT教室) ・ジャンル別(メイン・歴史・自然・環境)にプロジェクターを見ながら工夫した所や困っている所を発表する。 ・発表後に意見交流を行い、地域の先生のアドバイスを聞く。 ・意見などを参考に工夫できる所をグループで相談して修正する。 ・最後にFDに記録する。	・工夫した所や困っている所が発表できているか見守る。 ・意見交流で意見や感想が出ないときは、言葉がけをする。 ・わからない所は地域の先生に尋ねることを勧める。 ・作業が行き詰まっている子には言葉がけをする。 ・機器の緊急対応ができるようにしておく。(地域の先生: 三重大学生)
③偕楽公園の紹介パンフレットを作ろう。(PC教室) ・二つのグループ(歴史・自然)のできている所までのパンフレットを見て、電子掲示板を使い意見を書き込む。 ・電子掲示板の意見を確認する。 ・席を移動して意見交流を行い、地域の先生のアドバイスを聞く。 ・意見などを参考にグループで相談して手書きやPCを使って修正する。	・電子掲示板を使って意見を書き込んでいるか見守る。 ・意見交流で意見や感想が出ないときは言葉がけをする。 ・わからない所は地域の先生に尋ねることを勧める。 ・作業に行き詰まっている子には言葉がけをする。 ・席を移動しやすくするように声かけをする。 ・機器が壊れた時に、対応できるようにしておく。(地域の先生: 印刷業の人 PCのインストラクター)
④偕楽公園の紹介ビデオを作ろう。(6-1教室) ・偕楽公園で撮影したビデオを視聴する。 ・ビデオの視聴後に意見交流を行い、地域の先生のアドバイスを聞く。 ・意見などを参考に、修正する場所を明らかにする。 ・カメラなどを使い、修正する場所の取り方を練習をする。	・工夫した所や困っている所が発表できているか見守る。 ・意見交流で意見や感想が出ないときは言葉がけをする。 ・わからない所は地域の先生に尋ねることを勧める。 ・取り直しの場合、その理由もしっかり考えるように助言する。 ・声の大きさ、撮影する方向、場所の選び方などが見る人の立場に立って、わかりやすく表現できるように支援する。(地域の先生: ZTVの人)
3 各教室ごとに終わりの会を行う。 ・地域の先生の話を聞く。 ・本時の活動の反省をする。 ・次時の活動内容を確認する。	・教師や地域の先生から感想を話す。 ・協力して後片づけができるように言葉がけをする。

(4) 大型プリンタを用いた支援

11月22日に研究発表会を行うため、大きな掲示物をいくつか作成する必要が出てきた。そこで、教育学部附属教育実践総合センターにある「B0版が印刷可能なプリンタ」を使用し、以下の掲示物を作成して活用した。

- ・学校の校舎案内図（研究会当日用）
- ・コンピューターを活用している拡大写真（6年生）
- ・安濃川流域の書き込み用地図作り（5年生）
- ・津駅前通りの書き込み用拡大図（4年生）

大型プリンターを使用し、拡大印刷をすることにより、公共施設が出している小さいパンフレットでも、子どもたちが書き込むことや貼り

付けたりすることができるように加工することができた。（図3・図4）

また、南立誠小学校では、大きな掲示物を作成する際は、切り貼りしたり、手書きをするしか方法がなく、大型プリンタを使用することにより、大変きれいに、また、発表会前の時間のない中で、効率的に掲示物を作成することができた。

5. 研究の成果と課題

南立誠小学校が「総合的な学習の時間」の実践を進めていく上で三重大学教育学部と連携して実践した成果と課題をまとめると、次のよう

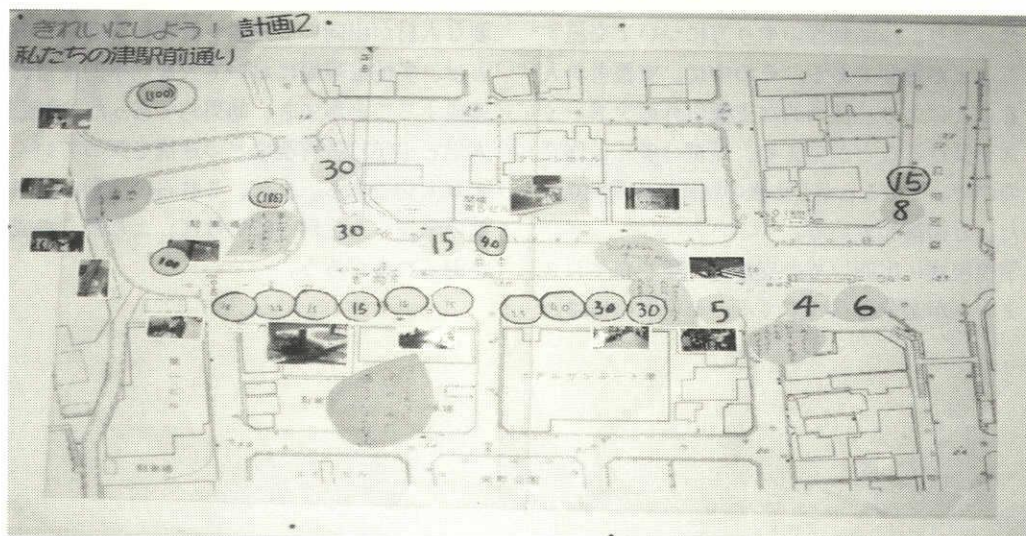


図3 大型プリンターを使用して作成した「津駅前通り書き込み用拡大地図」（4年生）

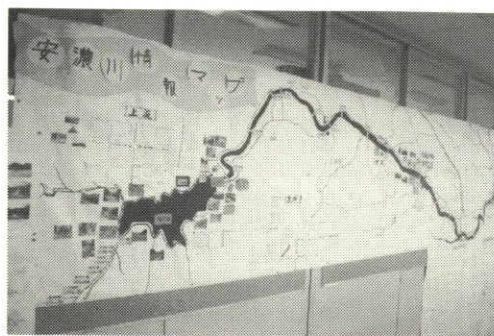
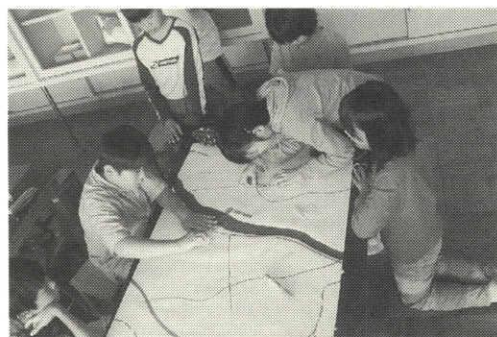


図4 パンフレットを大型プリンターを使用して拡大し、そこに子どもたちが情報を書き込んでいる（左）、完成した安濃川情報マップ（右）（5年生）

になる。

- 大学からの支援では、複数の専門的知識を持った支援者（須曾野・教育学部情報教育課程学生等）が参加するので、子どもたちは、パソコン操作面で困ったことなどを気軽に質問して、解決することができた。また、児童の作文にもあるように、支援者のサポートがあったことにより、自分のやりたいことがやさしく、分かりやすく理解することができた。このことから、パソコン学習では、児童が個々の課題や作品制作に取り組むので教室内により多くの支援者がサポートする方がよいと考えられる。
- 学習成果を発信する学習を進めていくには、完成までに児童たちが作成途中の作品を見せ合ったり、作品制作のやり方について交流することが重要である。その中に、支援者が入ることにより、技術的な支援以外のアドバイスを受けることができる。児童の多くは作文の中で、そのことがその後の制作に大変役立った、と指摘している。
- 学校現場に出向いての支援は、多くのアシスタントが必要となってくる。そのためには、

三重大学教育学部の学生が情報技術を習得し、学校現場において児童と触れ合いながら支援できる体制づくりが必要である。

- 子どもたちは、兄弟が少ないなかで、お兄さんお姉さんのような年齢層の人たちと交流することができ、技術的なサポート以外に、人とのふれあいも楽しみとなったようである。
- 今回の、教育学部情報課程の学生との交流をきっかけに、他の教育学部学生との専門性を生かした、教育実習以外の学校現場との交流・支援を検討する。

6. おわりに

大学から学校現場に情報機器を持ち込み、必要な人材が出向いて児童や教職員を支援することは、多忙な現場において大変効率的に目的を達成することができ、効果的であった。今後も、大学と小学校教育現場との連携を深めていくことが大切である。また、これらの活動が市内の他の学校へも広がっていけば、より多くの成果が得られるだろう。